

1 本年度の学校評価をふりかえって

本校は、教育目標「人間性豊かで、夢に向かって努力する生徒の育成」の具現を目指し、ふるさと土崎出身の劇作家、金子洋文氏の言葉である「荒海や吹雪にきたえ志港魂」を精神的バックボーンとし、「強く何ものにも負けない根性」「優しく他を思いやる心」の意味をもつ、「きたえ志」を教育活動の中核に据え、道徳教育とキャリア教育を2本柱に据えて取組の充実を図ってきた。生徒や保護者を対象とした調査結果からは、積極的な授業の取組や進んで自分の役割を果たそうとする姿勢、学校教育目標に対する理解の深化、自分の生き方や思いやる心について深く考える道徳の時間の取組の充実など、年間を通じた意識の変容を捉えることができた。今年度の取組を踏まえ、「豊かな心」(品性)「確かな学力」(知力)「行動する力」(活力)をバランスよく身に付け、土崎地区の未来を担う人間性豊かな生徒の育成に一層努めたい。

2 評価結果の概要

(評価 A：よい B：おおむねよい C：やや不十分 D：不十分)

分野	評価項目	取組状況と成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価の意見
教育課程・学習指導	夢と志を育むキャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 土崎港を中心に市北部地区で活動する若手経営者の団体である港商友会や国土交通省秋田港湾事務所、土崎港被爆市民会議など様々な企業や事務所等と協力して、職場体験活動やフィールドワーク、校外学習等体験活動の充実を図ったり、講師として職業や生き方に関わるお話をいただく講話会を開催したりすることで、生徒が職業や自らの将来について考える機会を得ることができた。 地域に根ざした活動とするために、受け入れ先や活動内容の更なる充実を図る必要がある。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 土崎からふるさと秋田に視野を広げた活動や秋田の中から土崎の特色を見つめる活動など様々な視点からより深い学びにつながるような工夫をするなど活動の一層の充実に取り組む。 活動の様子をHP等で紹介するとともに特別活動(進路学習)などの日常的な取組を計画的に行い、生徒のキャリア発達を促す。また、三者面談などの機会を通して、家庭でも生徒の将来について話し合う場面が設定できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒と保護者へのアンケート結果によると「将来の夢や目標をもって学校生活を送ることができている」の項目での肯定的な回答が生徒と保護者で隔たりがある。学校の様々な取組や成果、生徒の変容を発信しするなどして、保護者の意識を変える努力を続けてほしい。 普段の家庭生活と違い、外では子どもたちは保護者が思っている以上によく活動している。こうした活動を保護者に知らせる機会をこれからも設けていくことが必要である。 進路学習を今後も継続して、上級学校について知る機会を設けてほしい。
	もっと学びたいにつながる学習指導の推進	<ul style="list-style-type: none"> 小学校と連携して家庭学習の充実や「見直し-振り返り」型の授業の構築を共通実践事項として、継続的に取り組むことで、授業力向上を図った。また、前時の振り返りを基にした適切な課題設定をすることで、生徒の意欲の高まりが見られ、互いの学び合いが充実した。 ICTの積極的な活用により、授業時の話し合いや練り上げ等において効果的な活用場面が明確になってきた。適切に情報を選択する力を更に高めていく必要がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の習慣を確立させ、家庭での学習量を増やしていくためには、発達段階に応じた学習の仕方を小学校と連携して身に付けさせる。 生徒の学力向上のために、授業への積極的な取組や家庭での学習時間の確保など、教職員が同じ方向を向き、小中共通の認識の下に改善すべき点について具体的な手立てを講じていく。 ICTの有効な活用により主体的に学習する力を育むことにつながるよう、授業実践に役立つ情報の提供と継続的な研修を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査から、各教科の授業に対する肯定的な回答が低くなっている。今後も「分かりやすい授業」の展開を目標に、1年生の段階から継続して取り組み、研究を進めていただきたい。 ICTの活用を含め、授業や様々な活動に積極的に取り組むことで、改善策に挙げられた内容を実施してほしい。 生成AIの活用は、今後中学校でどのように取り組んでいくのか。これからの動向についても教えてほしい。それを踏まえて、ICT活用をさらに進めていくことが必要である。
生徒指導	いじめ防止の取組の充実	<ul style="list-style-type: none"> 「いじめ防止基本方針」による職員の共通理解の下、いじめの未然防止、早期対応を進めるため、各教科での学習、道徳科や特別活動などを通じて、継続的な指導を行った。 ネットトラブルに関しては外部講師による集会やPTAでの保護者への啓発活動を行い、いじめの未然防止に取り組んだ。今後家庭での使い方について保護者にも協力をお願いする必要がある。 いじめを早期に発見し、組織的に対応することはできた。今後も生徒の変化や学級の違和感に気付くよう、職員のいじめを察知しようとする姿勢を高めていくことが大切である。 	A	<ul style="list-style-type: none"> いじめの未然防止につながる活動の充実を図る。全職員が共通理解をし、すべての教育活動の中で、生徒が「多様性を認め、人権を侵害しない人」に成長するよう支援していく体制を作る。 年4回実施している悩みいじめ調査を基に、日頃の生徒観察を大切にしていこう。生徒の細かい変化を学年部職員で共有し、小さな芽のうちに解決できるよう、迅速に対応することを大切に今後も丁寧に取り組むようにする。 ネットトラブルへの対応は、保護者への啓発活動も含めて研修を進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 発件数は少ないが、今後もいじめの早期発見と解決に努めるとともに、集会や道徳の時間等の場において、善悪の正しい判断や他者を支える心などについて生徒の考えを深めたり広げたりすることができるよう一層支援してほしい。 小中の連携を深めて、いじめの防止につとめてほしい。 SNSの普及等により、多くの情報が生徒の目に触れるため、かえって善悪の判断をつけにくい状況にある。ネットトラブルなどSNSの使用に関して今後も指導を継続していくことが大切である。
	学校教育活動を貫く道徳教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 諸活動において他者との関わりを通して自己を見つめる場面を重視した指導の工夫に努めた。それにより道徳的な実践力が高まり、考え議論する道徳の充実を図ることができた。 学校自由参観日に全校道徳の授業参観を実施したことにより、家庭や地域との連携を充実させることができた。 タブレット端末を活用し、振り返りの記録を蓄積しているが、これらを効果的な活用について検討する必要がある。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動及び集会などにおいて、道徳的価値をキーワードとした話し合いの場を設定することで、他者との関わりの中で自己を見つめる機会とし、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。 全教育活動を貫く道徳教育の要となる道徳科の授業という認識を更に高めるために授業公開や地域との連携などを密にし、指導方法の工夫を図る。 成功体験の積み重ねが、生徒の成長につながることを捉え、今後も認め、励ますことを大切にしていこう。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳の題材は、身近なところにかくさんある。日常生活と結び付けて、日頃から意識して取り組む必要がある。 今後も全校道徳や授業参観などを続けるとともに、PTAなどで保護者への啓蒙活動にも力を入れてほしい。 今後も生徒に寄り添う姿勢を大切にしながら、子どもたちを励ましてほしい。また、生徒のよさや成長、頑張りを積極的に評価し、それを伝えていくことを大切にしてほしい。 朝のあいさつ運動では男女問わず元気なあいさつが見られる。
家庭・地域との連携	学校運営協議会委員の意見が踏まえた社会に開かれた教育	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会による行事や授業の参観を通して、生徒の様子を知ってもらうとともに、学校経営や進捗状況、災害時の対応等について意見交換等を行った。 学校運営協議会からの助言を生かし港商友会等地域に関わる各種団体と協力して地域のイベントに生徒が参加した。 学校の校則やいじめ、不登校への対応、各種アンケート結果に関して助言を生かした取組をより積極的に取り入れていく必要がある。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 地域に関わる各種団体からの要望を今後も積極的に受け入れ、生徒の活躍の場を一生広げていくことで、土崎地区の人材や施設を更に積極的に活用するなどふるさと学習の一層の充実を図る。 学校運営協議会からの助言を生かし災害への備えや緊急時の対応について共通理解を深める。 行事の内容や校則等を新しい価値観に合わせて検討するとともに、いじめ、不登校対応に関して、学校運営協議会での意見を参考にして、生徒一人一人に寄り添う指導を進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練を通して「いつ、どこで、誰がどうする」という意識が高まっている。AEDが設置されていることから、学校で学ぶ機会を今後も増やしてほしい。 不登校に対する考えも以前と変わってきている。生徒一人一人に寄り添うとともに、悩んでいる保護者も取り残さないような工夫も必要だと思う。 今年多発したクマ目撃に関する対応について、家庭や地域と協力して進めていく必要がある。 中学校入学時の提出物の期限など保護者の立場に立った改善策の検討をお願いしたい。
小中連携	土崎中学校区小中連携協議会を中核とした、方向性や関係性が実感できる小中連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> 小中9年間で発達の段階に応じた育成したい資質・能力とそのため取組について部会ごとに検討し、実践することができた。 職員間の情報交換の場を設けたり、夏季休業中に小中合同研修を開催したりすることで連携を図った。今年度はICT活用について研修を深めた。 相互授業参観については、更に進める必要がある。 生徒会による小学校でのあいさつ運動や陸上部員が小学校記録会の練習を補助するテクニカルサポート、小学生体験入学での中学生による説明等様々な場面で小学生と触れ合うことができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 校区内の小学校の統合を視野に入れて今後の連携の在り方を考え、きめ細かな配慮をしながら取組を進めていく。 共通実践事項について年度途中で評価改善を行うことで、より充実した実践にする。 小中教員合同による喫緊の教育課題に対する研修をより充実させる。 児童生徒の交流に関わる事業を充実させるよう、連携を進める。 小学校の段階ですでにタブレットを学習でよく活用している現状から、これを必要なツールとして一層活用していくための研修を進めていくことが大切だと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 小学校の統合により、将来的に中学校区が変容していく。このことを踏まえて、今後中学校区内の連携活動の参加校や話し合いの内容などを検討していく必要がある。 小学校から中学校へ上がる際の生徒が感じるギャップを少なくしていくために、互いの話を聞く情報交換の機会を大切にしていきたい。 小中連携について、小中で1つのテーマを設定して数年かけてその解決に取り組むなど時間をかけて実践していくことも大切である。 キタスカに中学生の様々な活動が紹介されており、こうした活動を知るよい機会になっている。
働き方改革	同僚性・協働性・専門性の高い教職員集団の構築	<ul style="list-style-type: none"> 閉門時間を早めるなど、多忙化防止への共通理解を進め、職員が互いに声を掛け合いながら協力して業務を遂行しており、時間外在校時間の減少や同僚性・協働性の高まりにつながった。しかし、月によってまだバラツキがある。 アプリ機能を活用した保護者からの欠席連絡が浸透し、朝の時間帯の電話対応が激減した。また、formsを使ったアンケート回答・集計を進めることで、多忙感の解消に効果を上げた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ICTを効果的に活用することで業務の効率化を図り、時間外在校時間の減少に努める。また、教員の多忙化防止と併せて保護者にも余裕ができる。こうしたWinWinの関係が築いていけるよう、今後もICT化による業務改善を続ける。 多忙化防止対策を一層推進するとともに、放課後等に生徒と関わる時間の確保に努め、生徒に寄り添った教育活動を今後も展開する。 忙しい中にも達成感があるとそれが働きがいにつながる。互いの努力を認め合うような組織づくりを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 閉門の時間は早まったが、朝早くから通勤する先生方も多く、時間の使い方をさらに考えていく必要がある。 今までよりもより業務内容が複雑になり、先生方も大変だが、その中でこれまでの仕事の内容を見直し、ICTを効果的に活用した業務の遂行を続けてほしい。 メールでのお便りの配信やアプリによる欠席連絡などは、かなり定着してきている。今後も効率化を進めていくことが大切である。